



TITLE:

岡山支部十二月通信/ 「天文雑話」  
(第三十五號掲載)の正誤表/ 海外通  
信/ カント生誕の二百年祭

AUTHOR(S):

---

CITATION:

岡山支部十二月通信/ 「天文雑話」(第三十五號掲載)の正誤表/ 海外通  
信/ カント生誕の二百年祭. 天界 1924, 4(37): 62-62

ISSUE DATE:

1924-01-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/160011>

RIGHT:

## ○岡山支部十二月通信

一、天文講演會 一日午後三時半から邑久高等小學校で邑久郡理科研究會主催の許に左記の講演があつて引續き夜に入つて實地觀望午後九時散會した。

曆にある星座 水野支部幹事

二、天界研究會 第二土曜日(八日)午後七時から、例によつて宮原幹事宅にて開會。

三、家庭宣傳 十二日夜金川中學校長宅。

四、六時望遠鏡 十七日から月末にかけて、神戸市化粧品商中谷作太郎氏はカフエー・アラッル岡山支店バルコニーに、獨逸製六時望遠鏡を据付け、晝は太陽及び景色を、夜は主として月を、一般の人々に觀望せしめられた事は天文に關する知識普及の爲めにより思付きであつた。

「天文雜誌」(第三十五號掲載)の正誤表

誤 正

二一頁下段三二行 上流の月 上弦の月  
三二 上段一九行 三十八軒 二十七軒  
同 同 三軒半 〇・二五軒  
同 中段二行 の星 α星  
同 同 六行 白魚座 白鳥座

二三頁下段一九行 日、月。

一六頁上段二五行 然らざる 然らしむる  
同 同 末行 幸進 幸甚

## ○海外通信

謹啓

暫く御ぶさた致しました、皆様御變り御座いませんが、東京の震災に御親族の御災難はありませんでせうか。

降つて小生等至つて壯健に消光致して居ります、豫定の如く日食(之れは曇り)の序てを以つて去る七月中旬より十月末までマウン・ウイルソンに滞在致し、そこでは幸ひにスミソニアン インスチテュションのアボト氏とウイルソン 臺長アダムス氏との好意により「太陽活動と太陽恒数との關係」を研究致しました。つまりアボト氏が *Proceeding of the National Academy of Science, U. S. A., Vol. 9, No. 10, p. 335 (1923 October)* に發表したものの材料から出發した研究でありまして、十月に入つてから意外にも非常に面白き結果に到着し、アボトもアダムスも喜んでくれました。十月末バサデナを出る前三十頁ばかりの一論文に纏めて提出して置きまし

(二四)

た。多分近い内に *Astrophysical Journal* に載せられるだろうと思ひます。此の研究は *Spectroheliograph* の結果を *Magnetic polarity of Sun-Spot* の結果とを材料として用ゐましたため、副産物も可なり多く、又、私としても太陽の實際觀測上にも又と得難き經驗を得たことを喜んで居ります。

尚ケンブリヂへは十一月十二日に着きました主として變光星の觀測及び研究を致しますことになりました、天氣が好くないのにかはらず、意外に多くの人の活動してゐるのを愉快に思ひます、小生昨日までに *Andromedae* の不規則な光度曲線を終りました、之れは *Shapley's Cannon* をかくれた問題ですが、近い内に *H. O. Bulletin* に發表されることと思ひます。今日から *KX Pupis* になりかけります。

濠洲の會議は如何でございましたか。

ケンブリヂにて

十一月二十四日 山本一清

新城教授殿

## ○カント生誕の二百年祭

獨逸ケーニスブルグに千七百二十四年四月二十二日即ち今より二百年前に生れた哲學者インマヌエル カントの紀念祭が本年獨逸は勿論各國に於いて行はるゝ筈である。彼は人も知る如く星雲説の最初の首唱者の一人である。何れ本誌四月號に於て論ぜらるべし。